

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570900369		
法人名	医療法人社団村重医院		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山口県山陽小野田市有帆真土535-118		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※イベント係を選出しており、毎月2回程度イベントを行い利用者に季節感を感じてもらえるようにしている。現在はコロナウイルス対策により外出は控えているが、施設内でのイベント、隣接するデイサービスが温泉である為ゆっくり温泉に入ってもらう日を設けている等、コロナにより家族との面会もできなかったり、外出支援もできない中でできる限り施設内で楽しんでもらえるよう努めている。
 ※隣接のデイサービスの食事と一緒にグループホームの食事も厨房にて作ってもらえるため、栄養バランス、季節の食材、イベントに合った献立等を食べる事ができ、味も美味しいと評判が良い。
 ※母体が病院である為何かあればすぐに相談でき、対応してもらえる。施設に看護師も2名いるので日々の健康面等、体調の変化等にも気付くことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの生活歴やできることを職員間で把握されて、食器洗いやテーブル拭き、下膳、掃除、野菜の収穫など、活き活きと取り組めるように支援されています。イベント係りを決められて、カラオケ団扇づくり、ウッドデッキの屋台での焼きそばづくりの他、ドライブ(紅葉、桜)、プチ運動会、温泉に行こう(隣接のデイサービスの温泉)など、楽しみごとや気分転換の支援に取り組まれています。管理者は、月1回のミーティング時や日常業務の中で職員からの意見や提案を聞いておられる他、代表者は訪問診療時や定期受診時に機会を設けられて、職員に声かけをしておられます。利用者の支援や業務内容の見直しについては職員間で話し合いをされて、意見や提案を運営に反映させるように努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営の理念である、住み慣れた地域で、家庭的な楽しい雰囲気のもと持っている能力を発揮され、尊厳ある生活を続ける事ができるように支援致します。の意味を職員は十分に理解し、毎日申し送り時に声に出して読み、意識付けを図り実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を玄関とスタッフルームに掲示している他、事業所だよりやパンフレットに記載している。毎朝の申し送りに唱和し、ミーティング時に話し合い、職員一人ひとりは理念を理解して共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、総会等進んで参加するようにしている。地元の子供会に毎年施設へ来てもらい利用者との交流を図っている。運営推進会議には自治会長に毎回参加してもらい、施設の状況報告等行っている。	自治会に加入し、管理者や職員が総会や清掃活動に参加している。自治会の回覧板で地域行事の情報を得て、初詣は地元の神社にお参りに行き、甘酒の接待を受けるなど、地域の人と交流している。隣接のディサービスセンターの温泉に入りに行ったり、コロナ禍の前までは誕生会に参加したり、ボランティア(茶会、日本舞踊)の来訪時に見学に行き、交流している。事業所周辺の散歩時には近隣の人と挨拶を交わしているなど、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の人への理解をしてもらえるよう、日頃の施設での様子、支援の方法等運営推進会議を通じて地域の方へ伝えている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価をすることによって自分自身、施設全体を見つめ直すことができ、それと同時に反省することができるため、改善へ向けての目標が生まれ、その目標に向かって努力することができる。	管理者は評価の意義について職員と話し合い、自己評価をするための書類を全職員に配して記入してもらい、話し合いをして管理者がまとめている。今年度はコロナ禍で地域行事の参加や小学生との交流も出来なかったため、自治会との関係や地域行事にすすんで参加していくことを話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の状況報告をし、地域の方、市の職員、利用者の家族からいろいろな意見をもらい、改善すべき点、についてそれらの意見を参考にし、職員で話し合い今後のサービスの向上に活かせるよう努力している。	会議は書面送付も含めて2ヶ月に1回開催し、利用者状況や行事予定、行事報告、ヒヤリハット、事故報告書などについて報告をして、意見交換をしている。1月は自治会長や家族、新人職員の参加を得て、認知症の勉強会を実施している。出席者からは、避難訓練の継続やコロナ禍の対策などの意見が出され、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より何かあれば市の方に相談しており、都度意見をもらっている。市主催の会議等には参加し意見交換を行っており協力関係は築けている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、直接出向いて相談して助言を得ているなど、情報交換をしての協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、ネットワーク会議の他、電話で利用者状況について話し合っているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施設内研修で身体拘束について学んでおり、全職員理解できている。身体拘束委員会で拘束内容等の見直しを行い、ケアカンファレンスにて対策をみんなで話し合い、拘束のないケアを実践している。希望者は身体拘束についての施設外研修にも行き、学んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」、「身体拘束ZEROマニュアル」があり、身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回実施している他、身体拘束ZEROに向けての対策について職員間で話し合いをしている。月1回のミーティング時に身体拘束の内部研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠をしないで、外出したい利用者とは、職員が一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者や計画作成担当者が指導している他、職員間でも話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての施設内研修を毎年行っている。入浴時には気を付けて身体の観察をするようにし、小さな変化でも管理者、看護師に報告することで虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で権利擁護に関する制度について全職員学んでおり、理解している。今後必要性のある利用者が居ればそれらを活用できるよう支援していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は運営規程、重要事項説明書に基づき、入居に関しての説明を十分に行い、家族に納得して頂いた上で契約している。家族から不安なこと、わからないことを聞き、できる限り家族の不安を取り除くよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や契約書に苦情窓口を掲載し、その旨を契約時に家族へ説明している。普段より目安箱の設置、電話の際や運営推進会議時等家族からの意見を聞き、日々の業務の中で活かせるよう努めている。	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続き等を重要事項説明書に基づいて家族に説明している。目安箱の設置をしている。面会時、運営推進会議時、電話、家族参加の誕生日会、事業所だより送付時、受診結果送付時等で、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。家族からは、できるだけ運動をさせてほしいとの提案があり、職員で工夫している他、ケアに対する要望にはその都度、対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務の中で職員の意見を聞き、話し合いが必要であれば全職員で共有し、業務の中で活かせるよう努めている。必要であれば代表者に報告、相談している。代表者は訪問診療時や定期受診の際職員の意見を聞いてくれている。	管理者は月1回のミーティング時やカンファレンス、日常業務の中で職員からの意見や提案を聞くように努めている他、日常的に職員に声かけをして、意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに努めている。代表者は訪問診療時や定期受診時に機会を設け、声かけをしている。利用者の支援や業務内容の見直しについては職員間で話し合いをしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度各部署の管理者が集まり、職員の勤務状況等代表者へ報告の場を設けている。直接代表者より職員へ声をかけたり、職員の意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	代表者は法人内での研修の機会を設け、働 きながら学べるように配慮している。施設外 の研修に関しても個々の職員に合った研修 を進めてくれている。	外部研修は、職員に情報を伝えて段階や希 望に応じて、勤務の一環として参加の機会を 提供している。危険予知訓練、虐待、身体拘 束に参加している。法人研修は、外部講師を 招いて、認知症の薬(リレグラ・ランタンス)につ いて実施し、内部研修時に復命し、共有して いる。内部研修は、月1回のミーティング時に 避難訓練、緊急時の対応、身体拘束、高齢 者虐待、感染症対策、個人情報保護、プライ バシーの保護等を実施している。新人研修は 管理者がマニュアルに基づいて説明後に、 管理者や先輩職員の指導のもと、日常業務 の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	グループホーム協会に登録しており、勉強 会や交流会等に参加し、同業者との交流を もつことによってサービスの質の向上に努め ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、契約時等家族、ケアマネより情報を 聞き、入居時には本人との関わりを十分も ち、不安や要望等聞き出せるよう努力し、安 心して生活できるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約時に家族の要望、悩み、不安な事等傾 聴し、できる限り家族の思いに寄り添うよう心 掛けている。入居後も来苑時、電話の際等 家族の要望等に耳を傾けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時より家族の要望をしっかりと聞 いた上で何が必要な支援かを考え、家族に 助言できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な楽しい雰囲気のもとで利用者と一緒に家事や食事、レクリエーション等共にする事でお互い喜び合い、時には励まし合い、一方的な関係にならないよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態の変化などあればすぐに家族へ報告している。支援の方向性等も家族、利用者の希望を聞いた上でこちらの一方的支援ではなく、常に家族、利用者の立場にたって考えるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可を得た上で馴染みの人等面会あれば会ってもらうように支援している。ドライブなど外出支援で馴染みの場所へ出掛けようようにしている。	家族の面会や親戚の人と、友人、知人、近所の人などの来訪がある他、電話の取り次ぎや手紙での交流を支援している。コロナ感染予防のため、面会は事前に予約を取り、家族、利用者ともマスク着用で、玄関先で15分間程度としている。以前住んでいた家、近所のスーパーに出かけている他、家族の協力を得ての外出など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者個々の性格等理解した上でカンファレンス時や、申し送り時に利用者同士の関係性を考え、テーブル席等決めている。時には利用者全員そろってのレクリエーションを行い利用者同士が関わり合える環境を築いている。		
23		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も家族に利用者の様子を聞いたり、家族許可が得られればお見舞いや、新しい入居先へ様子を見に行ったりしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わりの中で、一人ひとりの思いを汲み取れるよう努めている。利用者の思いは職員同士共有し、カンファレンス、申し送り時等に話し合い、できるだけ利用者の思いに沿った支援ができるよう努めている。	入居時の基本情報(趣味、家族構成など)や独自のアセスメント表、人生表などを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子、気づき、言動をケース記録や各個人ノートに記録し、思いや意向の把握に努めている。計画作成担当者と利用者を担当している職員でセンター方式のシートにまとめ、カンファレンスで共有している。困難な場合は、職員との関わりの中で知り得た情報を基に職員間で話し合い、本人本位に検討している。利用者の好きな物を食べてもらう、帰りたいという思いで外に出て行かれる利用差に寄り添い一緒に歩くなど、その人らしい暮らしを続けられるよう支援に取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネよりフェイスシート等により情報をもらい、全職員が共有している。契約時には家族からこれまでの生活歴等聞き取りを行い記入してもらう事で全職員が共有し、支援に繋げている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の出来る事、趣味等を活かせるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に担当職員、家族で話し合い、可能であれば利用者本人に聞き取りを行いその時々合ったケアプランを作成している。利用者、家族の希望をできる限り反映させたケアプランの作成に努めている。必要に応じて主治医、看護師の意見を聞き話し合いを行い見直しをしている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回のカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。利用者の状態の変化や要望に応じて見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子等個人のケース記録に記入し、支援の見直しがあれば申し送りノートへ記入し全職員が共有し支援に活かしている。口頭での申し送りも行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々状況に応じて、職員間で情報の共有をし、支援の方向性について話し合い、見直しをしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ買い物へ行ったり、イベントへの参加、地域のボランティアの受け入れ等利用し、利用者に楽しんでもらえるよう努めている。運営推進会議に地域の方を招き、協力を得られるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に家族の許可を得て村重医院を受診してもらい、入居後のかかりつけ医をどうするかを契約時に相談し、許可が得られれば協力医療機関をかかりつけ医としている。	本人、家族の同意をえて、利用者全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期検診がある他、月2回の訪問診療や訪問歯科診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診前日には「指示伺い書」で利用者の状況をFAXで知らせている。受診結果は電話や面会時、事業所便り送付時に家族に知らせている。職員間では個々のケース記録、申し送りノートで共有している。夜間や緊急時には、24時間医療連携体制となっており、かかりつけ医の指示を受けて対応しているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃のケアの中で利用者に変化があれば看護師に相談し、必要であればかかりつけ医に報告し、指示を得るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報を提供し、施設での生活についてもサマリ等で情報の提供を行っている。入院中にも様子をこまめに聞くようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化、終末期のあり方について説明し、家族の意向を聞き、家族の思いにそった支援ができるよう努めている。	事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	職員は全員救急救命講習を受講している。施設内研修でも緊急時の対応について実技の研修を看護師が中心となり行っている。	事例が生じた場合は事故報告書にその日の職員が緊急対応、事後対応を記録し、回覧して共有後に月1回のミーティング時に再検討をしている。ヒヤリハット報告は対策や課題を記録し、回覧している。別の職員からの対策についての記入があれば、再検討をするなど利用者一人ひとりの状況に応じた事故防止に努めている。職員は医療に関するマニュアル、緊急時対策、対応マニュアルに基づいての内部研修で、緊急時の対応(止血方法、タッピング方法等、実践を交えた研修)を実施しているが、全職員が実戦力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による救急手当や初期対応の定期的訓練
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回隣接の事業所と合同で避難訓練を行っており、事業所間での連携が図れるようにしている。運営推進会議時に自治会長へ災害時の対応について話しており、少しずつではあるが協力体制が築けてきている。	年2回、併設施設と合同で昼夜想定避難訓練(消火、通報、避難誘導など)を利用者と共に実施している。運営推進会議時に自治会長や地域の人に利用者の避難方法等について説明し、災害時の停電の対応についての話し合いをしている。事業所の連絡網に自治会長の名前を記載することについては了解を得ているが、緊急時の地域との協力体制を築くまでには至っていない。事業所としての非常食(水、ご飯、カップラーメン、レトルト製品など)や災害用具などの確保をしている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけを行っている。トイレや入浴時などは特に気配りをし、利用者のプライバシーを尊重している。言葉かけについては日頃より主任より指導をしている。	プライバシーの保護、権利擁護について内部研修を実施し、利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねないように言葉かけの工夫や対応をしている。気になる言動があれば、管理者や主任が指導している。個人記録などの情報の取り扱いや管理に気をつけると共に、守秘義務についても理解し対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で利用者の思いを汲み取り、できる限り本人に決めてもらうよう努めている。意思表示の困難な利用者は表情等から思いを汲み取るよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決まりごとを優先するのではなく、利用者の希望にそったケアができるよう努めている。日頃の生活の中で個々の利用者のペースを知り、できる限りこちら側が利用者のペースに合わせるよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、家族、本人の希望を聞き、カット、カラー、パーマ等対応している。着替えの際には本人の着たい服を選んでもらうようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭きやテーブル拭き、食事の盛り付け等手伝ってもらい利用者と一緒に準備を行っている。食事は利用者と職員一緒に食事をし、楽しい雰囲気をつくっている。食後は食器洗いを手伝ってもらっている。	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の状態に合わせて形状などの工夫をしている。利用者は、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、盆拭き、下膳など、出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓で食べている。季節の行事食(おせち、節分の鰯、土用の鰻、おはぎ、年越しそばなど)、おやつづくり(ぜんざい、白玉団子、ホットケーキなど)、事業所内で屋台の焼きそば、たこ焼きや寿司を食べる他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記入しており、個々の利用者の状態が把握できるよう努めている。その時々状態に応じて、食事形態、栄養補助食品の提供等支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には歯磨きを行っており、個々の利用者にあつた歯ブラシ等検討し、声掛け、必要であれば一部介助等行い、本人の状態に応じた支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の利用者の排泄パターンを把握するために毎回記入するようにし、できるだけ失敗のないよう声掛けを行い、自立に向けた支援をしている。	バイタル表の中の排泄表を参考にして排泄パターンを把握し、時間を見計りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでもらったり、日中体操や廊下歩行等身体を動かす機会をもつよう支援し便秘への予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な範囲の中で個々の利用者の希望にそった支援を心がけている。午前、午後共に入浴できるようにしている。イベントとして隣接するデイサービスのお風呂(温泉)にゆっくり入ってもらう支援も行っている。	入浴は毎日、10時から11時30分までと14時30分から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週2回は入浴できるよう支援している。利用者の体調に応じて、シャワー浴、清拭、足浴などの支援をしている。入浴剤、柚子湯、肌にやさしい石鹸を使っている他、シャンプーハットの利用、職員と一緒に童謡や歌謡曲などを歌ったり、昔話をしている。湯船に入れない利用者には特浴を利用するなど、入浴楽しむことのできる支援をしている。入浴をしたくない人には言葉かけの工夫や時間の変更、職員の交代など、個々に応じやた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の生活リズムに合わせ、日中でも居室で休んでもらったり、ソファに座りゆっくり過ごしてもらう等支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をケース記録に入れておりスタッフがいつでも確認できるようにしている。薬に関しては看護師中心のもと都度話し合い、必要があれば主治医に相談するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に家族より生活歴、趣味等聞き取りを行っている。日頃の利用者との関わりの中での昔話等より個々の楽しみは何か把握できるよう努力し、楽しく日々生活できるよう努めている。	節分祭、七夕会、事業所の盆踊り、運動会、敬老会、誕生日会、ディサービスセンターでのカラオケ、テレビ、DVD視聴(時代劇、歌番組、動物番組、お笑い、サザエさん)、ラジオ体操、ぬり絵、折り紙、そろばん、編み物、風船バレー、花札、カルタ、新聞、雑誌、絵本を読む、貼り絵、ちぎり絵、生け花、歌を歌う、お手玉、文字合わせ、盛り付け、食器洗い、テーブル拭き、おやつづくり、野菜の収穫、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除などやイベント係りを決めてのカラオケ大会、風鈴、うちわづくりなど、活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウイルス対策のため外出支援ができなかったが、普段はその時々に応じて外出の支援を行っている。家族と外食へ出掛けたり、地域のイベントへ参加したり、外部の協力もあり支援できている。	近隣の散歩、ウッドデッキでの外気浴、日光浴、四季の花見(桜、紅葉)、江汐公園、今富ダム、竜王山、以前住んでいた家、近所のスーパー、能神神社初詣などの他、家族の協力を得ての外出など、戸外に出かけられるように支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理ができる利用者が居ない為、基本は施設側で管理しているが、希望があれば家族との相談の上、本人に所持してもらうようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に関しては希望があれば支援をしている。必要に応じては家族へ相談をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃を行い施設内の清潔に心がけている。季節ごとに飾り付け等を行い、利用者に季節を感じてもらえるよう努めている。	共用空間は明るく、大型テレビの前や廊下にソファを置いて、利用者がゆったりとくつろげる居場所となるように工夫されている他、畳コーナーもある。玄関やリビングには季節を感じられるものを飾り、壁面には利用者の作品、行事の写真、四季に応じた飾り付けがしてある。リビングに加湿器が設置してあり、温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルスペースがいくつかあり、気の合う利用者同士が過ごせるようにしている。他にもソファースペースがある為独りの時間がもてたり、くつろぐことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族へ自宅での馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、できるだけ今まで過ごしてきた環境と変わらないよう工夫している。個々の利用者の状況に応じて必要な物等あれば都度家族へ相談し本人が過ごしやすいようにしている。	テレビ、机、椅子、ソファ、仏壇、タンス、好みの寝具、日用品、化粧品などの使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、貼り絵などを飾って本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが設置してあり、段差も無いため歩行練習等安全に行えるようになっている。手すりを持っての立上りの訓練等も行っている。居室には個々の名前、トイレ等利用者に分かりやすく表示しできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームこもれび

作成日: 令和 3 年 4 月 27 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の定期的な訓練は行っているが、実践力を全員が身につけるまでには至っていない。	研修計画をきちんと立て、職員全員が実践力を身につけれるよう努める。	コロナ対策の為前年度研修が思うようにいかなかった為、今年度は施設内研修で引き続き応急手当や初期対応の実践研修を行う。外部研修へも参加し職員全員が実践できるようにする。	1年間
2	36	災害時に自治会へ協力要請はとれるようにしているが具体的な内容については決まっていない。	地域の消防訓練に参加し、地域の方との交流を図る。	今年度自治会長がかかった為運営推進会議へ参加していただき災害時の協力体制について相談する。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。